



琉球病院 Monthly



独立行政法人
国立病院機構 琉球病院
National Hospital Organization RYUKYU Hospital

Vol.74
2019. February

発行者 琉球病院事務部長
秋好 輝雪

基本理念 この病院で最も大切なひとは医療を受ける人である

琉球病院における医療安全への取り組み

医療安全管理係長 又吉 直樹

国立病院機構では、医療安全管理体制の確立、医療安全管理のための具体的方策及び医療事故発生時の対応方法等について「独立行政法人国立病院機構における医療安全管理のための指針」を定めており、これに基づき適切な医療安全対策への取り組みを実施しています。中でも医療安全相互チェック（以下、相互チェック）は、各病院の医療安全対策の現状について評価を行い、医療安全対策の標準化を推進するとともに、医療安全の質の向上と均てん化を図ることを目的としています。相互チェックの実施はH23年度から試行的に行い、H25年度から本格実施となり、全国の国立病院機構の病院間で行われてきました。

琉球病院においても、平成30年10月、11月に相互チェックを行いましたのでその実施内容について紹介いたします。

相互チェックは、当院と熊本、佐賀の精神科3施設間で行い、3施設の職員以外にも国立病院機構本部、九州を統括する担当者の参加もあり、総勢25名での取り組みとなりました。

当院への相互チェック実施評価は、医療安全チェック項目にもとづき行った結果、医療安全、感染管理マニュアルが適切に整備されている、転倒転落防止対策が他職により検討され取り組まれている、離院防止対策等においても優れているとの評価を頂きました。また医療安全情報の職員への周知や研修の実施方法について、更なる充実、強化について助言を頂きました。

相互チェックは、医療安全における自施設の課題が明確になり、他施設の良い取り組みを吸収、情報共有ができます。また相互における評価や助言は、医療安全に対する姿勢が高まり、同時に良い人材育成につながるといえます。今回の当院の課題についても早急に取り組む、質向上に取り組んでいきたいと思っております。

医療安全を推進することは、医療の質の維持、向上において重要かつ必須であるといえます。今後も医療安全への継続的な取り組みをとおして、患者、家族また連携、関連する機関において信頼される病院でありたいと思っております。



トピックス

行事・出来ごと

- 病棟等建替 進捗状況 本体工事：新病棟（第1期工事）完成・・・平成27年7月
- 整備の動き 雨水配水管盛替工事 完成・・・平成29年2月
- 新病棟（第2期工事） 完成・・・平成30年10月

● 地域医療連携室だより

地域医療連携室では患者様やそのご家族様の経済的な心配、入院治療や退院した後の困りごと、福祉サービスのことなどの相談に応じています。また、病棟ごとに担当の相談員がおり患者様やご家族様が安心して退院し地域で生活できるよう地域関係機関と連携し支援を行っております。何かお困りのことがございましたらいつでも地域医療連携室までご相談下さい。

院長

福治康秀(ふくじ やすひで)
1964年生まれ、那覇市出身、首里高校卒。
1993年琉球大学医学部卒、琉球大学医学部精神神経科入局。
95年那覇市立病院精神科、96年琉球大学精神神経科、2009年琉球病院精神科部長、2010年副院長を経て2014年琉球病院長に就任。
日本病院・地域精神医学会理事。



診療科

- ・ 一般精神科
- ・ こども心療科
- ・ 物忘れ外来
- ・ アルコール依存症等外来

病床数 416床

- ・ 精神科病棟 151床
- ・ 認知症 56床
- ・ アルコール 54床
- ・ 児童思春期 ユニット 4床
- ・ 重症心身障がい 90床
- ・ 医療観察法 37床



● アクセス

路線バス / 那覇BS(下り)または名護BS(上り)より沖縄バス「17番名護東線」浜田バス下車徒歩3分
自動車 / 那覇市から40分
沖縄自動車道金武インターから名護向け5分

NHO PRESS～国立病院機構通信～について

琉球病院は、国立病院機構 (NHO: National Hospital Organization) という143の病院からなる国内最大級の病院ネットワークの病院です。

国立病院機構 (NHO) という病院ネットワークが、どのようなグループでどのような活動をしているのかを紹介する「NHO PRESS～国立病院機構通信～」を発行しています。 外来ロビーに設置していますので、ぜひご覧になってください。

なお、ホームページに最新号と過去のものを掲載していますので、そちらもぜひご覧になってください。[NHO PRESS]で検索してください。

お問い合わせ時間
8:30～17:15 (土・日・祝日以外)
TEL: 098-968-2133 (代)
内線: 231・234
地域医療連携室(直通)
TEL: 098-968-3550
FAX: 098-968-7370

治療抵抗性精神疾患への医療



クロザピリンの治療状況

平成22年から治療抵抗性統合失調症の患者様に対してクロザピリン(CLZ)治療を開始し、全症例は257例になりました。平成30年12月のCLZ導入は2例で、このうち1例は他の病院からのご紹介をいただきました患者様でした。CLZ治療前には暴力行為や多飲水などの問題行動のために隔離が必要な患者様も多くいらっしゃいましたが、CLZ継続例では問題行動も少なくなり、隔離は解除できています。週に3回の専門外来も行っていますので、患者様のご紹介をお願いいたします。

m-ECT（修正型電気けいれん療法）の治療状況

当院では、m-ECT（修正型電気けいれん療法）による治療を行っています。平成30年12月の治療実績はありませんでした。

こども心療科

去る1月26～27日の2日間、大正大学心理社会学部臨床心理学教授の近藤直司先生（精神科医）を講師にお招きし、不登校やひきこもりの支援に関する研修会を開催しました。近藤先生には、『不登校・ひきこもりケースの理解と支援～包括的アセスメントに基づく支援～』をテーマに、不登校やひきこもりの状態にあるお子さんを理解するために、どのように情報収集して子ども理解や支援につなげていくかについて、具体例を交えながらわかりやすく解説して頂きました。

参加者は、医療、教育、保健、福祉と多岐の領域に渡り、2日間ともに多くの方々にご参加頂きました。受講アンケートから受講者の満足度は非常に高く、充実した研修会になりました。

当院では、今後も「沖縄県子ども心の診療ネットワーク事業」を通して、子どもの発達や思春期臨床に関する研修会を定期的に開催していきます。研修会の案内は、マンスリーでも発信していきますので、興味関心のある方はぜひご参加ください。



認知症医療 認知症初期集中支援チームについて

認知症初期集中支援チームの目的は、認知症になっても本人の意思が尊重され、できる限り住み慣れた地域の良い環境で暮らし続けられるために、認知症の人やその家族に関わる「認知症初期集中支援チーム」を配置し、早期診断・早期対応に向けた支援体制を構築することです。認知症初期集中支援チームとは複数の専門職が家族の訴え等により認知症が疑われる人や認知症の人及びその家族を訪問し、アセスメント、家族支援などの初期の支援を包括的、集中的に行い、自立生活のサポートを行うチームの事です。当院はうるま市、金武町・宜野座村・恩納村（三町村）と認知症初期集中支援チームを組んでおり、毎月の会議で事例検討等を行い通院、治療入院へと繋げています。地域でお困りなケースなどがありましたら各市町村包括支援センター等へご相談ください。

重症心身障がい医療

1月7日（月）重症心身障害病棟の新年会を開催しました。今回は民謡や太鼓のイベントボランティアの皆様にご協力頂きました。賑やかな衣装で登場され、演奏がはじまると身体全体で喜びを表現されたり、一緒に踊ったり、集中され聞き入っておられる方等、生演奏に利用者の皆様、惹きつけられたようです。また、職員による獅子舞も登場し会場を盛り上げていました。

新しい年が皆様にとって良い年となりますように！



アルコール・薬物依存医療

平成25年5月27日、アルコール依存症の新しい治療薬「レグテクト」が発売となりました。レグテクトは、アルコール依存症の方の強い『飲酒欲求』を直接和らげてくれる作用があります。当院では30年12月末現在、外来通院の患者様92名、入院中の患者様19名の方が服用されています。内服している方は「飲酒欲求が軽減した」と話され、再飲酒の抑制につながっています。また、当院の外来での調査では、レグテクト内服を継続している患者様の方が、治療継続率が高いという結果も出ております。患者様へは、適宜導入を勧めています。断酒が困難な方は、ぜひ外来を受診相談して下さい。

包括的地域精神医療

12月の訪問看護利用者件数は、773件のご利用をいただきました。月平均36.9件の訪問看護を展開いたしました。12月の新規・再開の訪問看護は9名の利用者様の申し込みがありました。当院の訪問看護は、北部地域全域及び中部地区浦添市までを活動範囲としています。今回、北部地区の新規申し込みにおいて往復150km余りの距離で訪問看護を行っています。利用者様は、バスを乗り継いで遠方から当院への外来を定期的に受診しています。本当に感謝の思いです。

訪問看護では、入院中からケースカンファレンスへ参加し情報の共有を図ります。退院後は利用者様が地域や家庭でより充実した生活が過ごせるよう、地域と連携を取り、多職種で情報を共有し個人の生活スタイルに合わせた支援体制を行っています。

臨床研究部活動状況 第31回 九州アルコール関連問題学会 沖縄大会のご案内

平成31年3月22日（金）・23日（土）に沖縄国際大学において第31回九州アルコール関連問題学会を開催します（大会長：福治康秀 琉球病院院長 主催：琉球病院 共催：糸満清明病院）。今回は『連携再考-アルコール健康障害対策推進計画策定後の連携を考える-』をテーマに、関連する領域について学びを深めていきたいと存じます。特別公演では村上優先生（国立病院機構さいがた医療センター）をお招きし「アディクション医療のこれまでとこれから」をテーマにご講演いただきます。また、「基礎講座」「事例検討」「地域資源と支援」の3つの分科会と『アルコール健康障害対策推進基本計画策定後の連携を考える』をテーマに市民公開講座も開催される予定です。ほか、ランチョンセミナー、イブニングセミナー、ポスターセッションも予定され、盛りだくさんの大会となります。多くのおみなさまの参加をお待ちしております。

詳細は琉球病院ホームページ「第31回 九州アルコール関連問題学会 沖縄大会」バナーからご確認ください。http://www.ryu-ryukyu.jp/